令和7年度 岡山教育事務所管内



PTA等指導者人権教育研修会を開催しました



講話

「不登校と多様な学びへのハッピーアドバイス」

講師

自己肯定感を育む子育で・人育ちをサポート 一般社団法人HAT 代表理事 明橋 大二 氏

令和7年10月10日(金)に「令和7年度 岡山教育事務所管内 PTA等指導者 人権教育研修会」をオンラインにて開催しました。

全国的に増加傾向にある"不登校"の子どもたちへの理解や関わり方について、医学的な知見や実例等を交え、参加者が子どもたちと関わる上でのヒントやきっかけが得られる内容を伝えていただきました。



~ 研修会資料より ~ (一部版粋)

1. 不登校とは

- 子どもにとって学校という環境が「合わない」状態。
- ・子どもの状態が関係していることもあれば、 学校の環境が関係していることもある。
- 一番大切なことは、それぞれの子どもに合った学びの環境を整えていくこと。
- ・しかし現実にはそのような選択肢はまだ限られているし、そんな中で、学校に行けなくなって苦しむ子どもがいて、親がいる。
 - →支援が必要。

4. 不登校になったいきさつについて

- ただ、不登校になったいきさつについて、考えることは、 必ずしもマイナスではない。
 - →もし現在にも影響していることがあるなら、 それを取り除くことが子どものつらさを軽減することに なるかもしれない。
 - →取り除くことができないとしても、少なくとも 子どものつらさを理解する助けになる。
 - ※ただ、安易にこれが原因だと決め付けないこと。 無理に子どもを問い詰めないことが大事。 (多くの子どもは語れない)

9. 不登校状態をどう理解するか(まとめ)

- ・オーバーヒート、凍りつき反応、いずれにせよ、 生体の防御反応であり、生理的な反応
- →人間が生き物として獲得してきた、心身を守るためのメカニズム。病的なものではない。
- →そのような生体のメカニズムを持った(しかも 多様な)人間がいることを前提に、環境(学 校環境)を整えていくことが必要。

(高齢者や障がいのある人が生活することを前提にエレベーターや交通機関を整備していくように)

11. 不登校への基本的な対応

i)学校へ行く行かない、教室へ入る入らないだけ にこだわらない。

本人の心の回復、心の成長の方がもつと大切。

- ii)基本的な方針
 - a)疲れている子どもを、これ以上疲れさせない。 傷付いている子どもを、これ以上傷付けない。 不安な子どもを、これ以上不安にさせない。
 - b) 肯定的にとらえる。

16. 子どもが安心して通える学校とは

子どもが...

- ・子どもたちが望む学校のあり方に関して意見が言える
- 校則や学校行事について子どもの意見が取り入れられる。
- ・自分の特性に合った教育が受けられる
- ・暴力やいじめから守られる
- ・人格が否定されるような被害を受けない
- ・適切な環境(清潔、気温など)を提供される
- ・安心して友達と出会い、遊ぶことができる
- ・出自、宗教、貧富、性別、障がいの有無に関わらず、 平等な一員としてどんなサービスも受けることができる

19.不登校の親のサポート

2)不登校の親を支えるために

- i)まず、ここまで、子どもを支えてきた親への敬意、 ねぎらいの気持ちを持つ。
- ii)肯定的に伝える。
- iii)親の会
- iv)親もまた自分を大切にしていいと 伝える。

(飛行機のマスクの譬え)



~参加者の声~

不登校に対する考え方が変わった気がする。誰が・何が悪いと追及するばかりでなく、前向きに・気長に接するよう心掛けたい。

〈こども園 PTA会長〉

子どもはもちろん親もオーバーヒート状態にならないよう、普段から心身を休める時間や自分の楽しみになるような時間を設けたい。

〈幼稚園 PTA会長〉

自身も中学生のときに不登校 を経験し、学校に行けないこ とへの罪悪感をずっと感じて いたが、自分を守るための防 衛本能だと聞き、長年感じて いたモヤモヤが少し晴れた。

〈幼稚園 PTA会長〉

ブレイクアウトルームでの情報交換で他の方の悩みを聞くと、不登校が身近に感じられた。 当事者でなくても周りが知ることで、力になることができるのかなと思い、研修会に参加する意義を感じた。

〈幼稚園 PTA副会長〉

親として「見守る・理解を示す・寄り添う」という姿勢が大切さを改めて感じたという多い時期だからこそ、であるが"自分にないい時間"を過いではよう、アウトルームではとでいるようことのない方々との強いなった。触強になった。

〈小学校 PTA会長〉

講話を聞く前は、不登校の対応としてどうやって学校に通わせるかと考えていたが、まずは子どもの心身を回復させることが大切と聞いて、はっとさせられた。

〈小学校 PTA副会長〉

「不登校は"ギフト"」という言葉に強く心を打たれた。ネガティブな印象を与えやすい「不登校」は決して不幸なものではなく、捉え方次第では幸せに転じるのだと心に留めていたい。

〈小学校 PTA役員〉

不登校は他人事ではなく、周 囲ができることはみんなで改 善し支えていく、優しさの連 鎖が必要と感じた。

〈中学校 PTA研修部〉

これまでの対応を振り返りつつ、今後の対応について再考したい。学校へ持ち帰り、教職員・PTA含めて全体にお知らせしていく。

〈中学校 PTA副会長〉

不登校がどのような症状を経て回復していくのかを知ると、保護者としても見通しがもて、心の支えになると思う。研修を通して学んだことを広く周知していけるように働きかけたい。

〈幼稚園 教職員〉

不登校状態の理解の仕方、時期別の対応、回復のプロセス等がよくわかったので、これからの学校での対応に生かしたい。

〈小学校 教職員〉

教職員として、不登校の原因を探したり、教室に入ることを優先したりしている自分がいた。今後は、学びの環境を整え、子どもが安心して通える学校づくりのためにできることを考え、実践したい。

〈中学校 教職員〉



岡山県教育委員会では、これまでも様々な不登校対策を行ってきましたが、改めて不登校に係る基本的な考え方や対策を整理した上で新たな取組も加え、「【新岡山県不登校総合対策】OKAYAMA夢につながる学びプロジェクト」としてとりまとめています。

このリーフレットでは、"誰一人取り残されない学び"の 実現に向けて、学校における教育活動や学校内外の多様な学 びの場の事例、県の相談窓口等を紹介しています。

岡山県教育委員会のホームページよりダウン ロードできますので、ぜひご活用ください。





